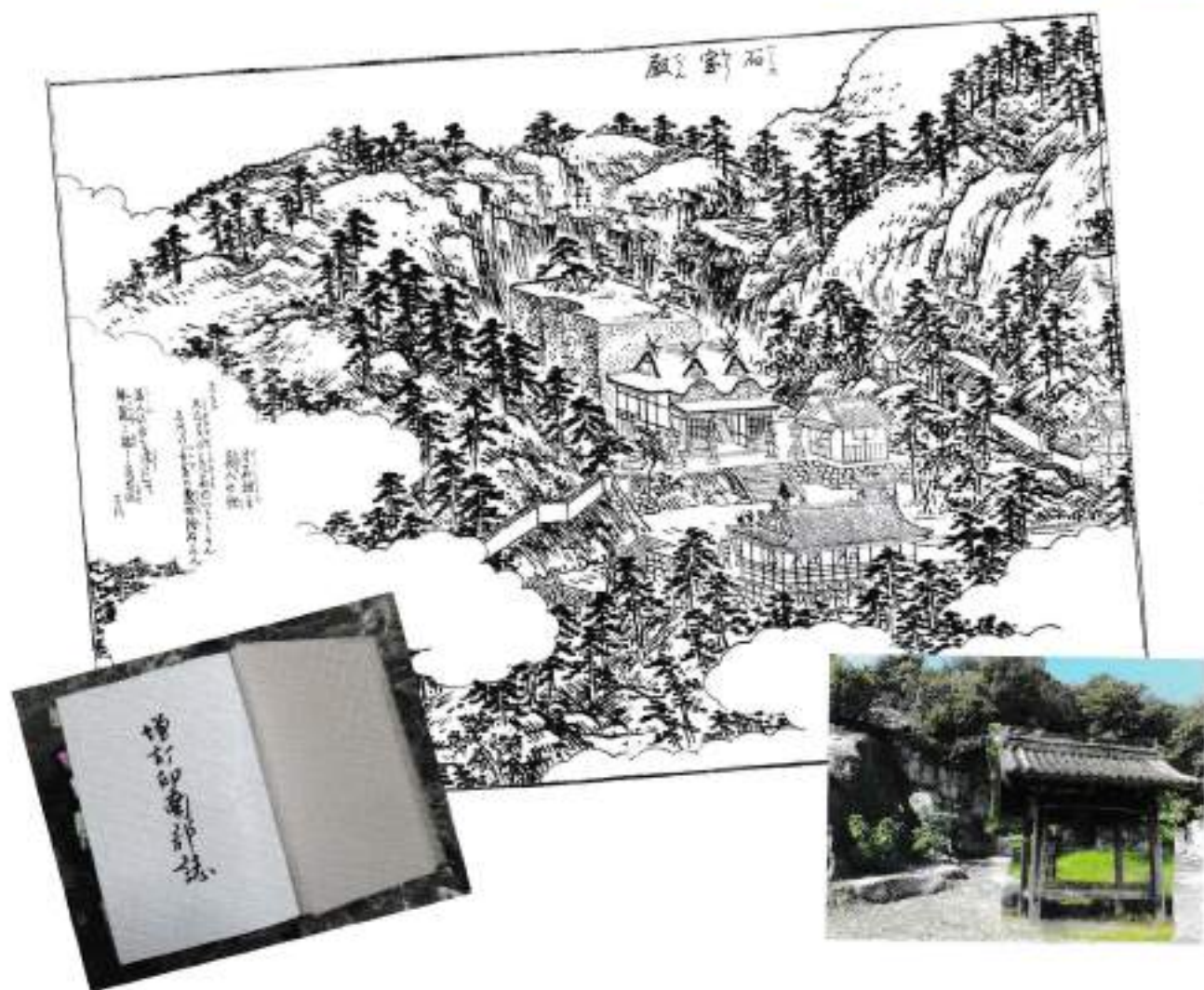


国史跡石の宝殿と関連史跡

魅力の深掘り研究報告



地域に埋もれた史跡関連や歴史に関する話を掘り起こし、国史跡「石の宝殿」の魅力を皆様に発信します。

身近なテーマですので楽しくご覧ください。

石の宝殿研究会



はじめに

国史跡 石の宝殿の魅力については、過去多くの書物などで細かく紹介されています。一方 印南郡誌や地域の史誌、また、古老の話とかで書籍の片隅に小さく書かれている関連情報にも興味を持ち、各地域の人達に話を伺い、調査レポートすることを魅力の深掘りと称して活動しました。

10数項目を抽出しそれぞれの狙いを定め活動を開始しましたが、途中で狙いを変更したり 断念する項目、さらには思いもよらぬ大きな成果に別冊報告を作成するなど 多大な時間を要しました。

深掘りのテーマ

	ページ
①生石神社の初代御旅所跡 3
②魚橋村の出井家の石碑	5
③神吉久太夫の歴史考察	9
④真宗谷(屏風谷)の宝塔	11
⑤日本三奇は誰が言い出した	12
⑥浮石周辺の玉垣	13
⑦あさから池	14
⑧鯛砂利と運搬石屑ルート	15
⑨龜山石工の作品	17
⑩生石神社のかつての建造物	19
⑪新田橋の今昔	21



深掘りの成果

★推定

①初代御旅所跡

神吉久太夫が建てたであろう能舞台の敷石が見つかりました。



敷石

能舞台イメージ

②出井家の石碑

東京にも頼定公の末裔の方がおられ
コンタクト出来ました
家系図全体を纏めました



神吉頼定公の廟

③神吉久太夫

益々謎が深まる久太夫です
★城崎事件は松平大和守ではなかったか



④真宗谷の宝塔跡

1300年前に建てられた宝塔の跡が
今も残る真宗谷



尾根の祠



宝塔イメージ

⑤日本三奇は誰が言い出した

★橋南谿と親交のあったであろう山片蟠桃が
言い出したのではとも推測される



浮石



木製の浮石玉垣

⑥浮石周りの玉垣

昭和10年4月の建設で123本の玉垣
★それまでは木の柵であったか。



魚橋の取水



魚橋息継井戸

⑦あさから池

播磨国風土記の池の原は40haの広さ
江戸時代に開拓:北池、南池村ができた
魚橋の取水・水利権は莫大だったか



阿弥陀共同墓地



大ズワリの鐘楼イメージ

⑧鯛砂利と石屑運搬ルート

魚橋コースに息継ぎ井戸が現存しています
成井コースの息継ぎ井戸は今は川の中



新田橋



⑨龜山石工の作品

牛谷開拓の碑、国分寺の鐘楼など発見
阿弥陀共同墓地の石仏は必見です

⑩生石神社のかつての建造物

鐘楼は大ズワリにあったと思われる
★詰所も初めは北側だけだったか

⑪新田橋の今昔

今も残る西加古川の洪水の歴史
幾度も橋は流され架け替えられた
洪水対策で築いた竹林の場所判明

①生石神社の初代御旅所について

情報

- ①印南郡誌…生石神社の御旅所なる能舞台は神吉久太夫の建立なり
- ②名所巡覧図絵…宵宮に神輿一基、山上より守り奉ると、同じく生石より是を麓に迎え、高御座山との間、神幸の……

テーマ

- 1、神吉久太夫が建てたと云う能舞台の遺跡はないか
- 2、名所巡覧図絵に書かれた氏子のはやし言葉はどんな意味？

深掘り

「産んだとのー 死んだとのー 鏝で腹を割ったとのー (ヨーイヤサ)」

- 1、神吉久太夫が建てたと云う能舞台の遺跡はないか

①御旅所の場所…阿弥陀町北池459

◆近年まで加利堂：“かりんさん”と親しく呼ばれていた

②戦前には御旅所跡として氏子が草刈りに出かけていた模様

③字名は「前虫」
地元の方が除草し手入れをされている。



せしなりと、又曰く魚橋村正運寺の正門及生石村生石神社の御旅所なる能舞台は同人の一建立なりと。

○神吉久太夫

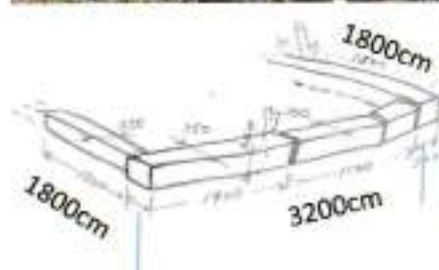
◆印南郡誌より

★能舞台の敷石と思われる石を発見！！

1月10日、2度目の調査で敷石の半分を確認

南北に3.2m幅30~35mの敷石(下図)東西は不詳。方向は北向きで高御位山、長尾の尾根を指す。

◆名所巡覧図絵に書かれたように 高御位山山頂の神輿と生石神社御旅所の神輿が相対自し神事が行われたことが偲ばれる。



2、名所巡覧図絵に書かれた氏子のはやし言葉はどんな意味？

「産んだとのー 死んだとのー 鎌で腹を割ったとのー (ヨーイヤサ)」
と 興舎の板垣などを破よと打ち叩き 人みんな大声で
人みんな大声で告げて帰る。



①狂言の「鎌腹」を見た村人たちが唄ったか

能狂言に「鎌腹」という有名な演題があります。怠け者の亭主をおかみさんが何度も叱り飛ばし 山に芝刈りに行かせます。おしまいには亭主が「山へ行って鎌で腹を切って死んでやる…」と談阿を切りますが怖くてできずにすごすごと家に帰ってくるという話。

◆狂言共同社に問合せたところ 佐藤先生から次のような話を頂きました。

能狂言「鎌腹」の演目はありませんが、このような離子言葉はありません。女性の出産の困難を言ったものと思われそうですが、もともと地域にあった言葉で「鎌腹」を見た客が この文句を思い出し ハヤシながら帰ったのでは？ 福井県ほか 出産の困難を現す俗謡が各地にあるようです。

②生石神社の神事の「赤ばやし」はこれが発祥か

神事に「赤ばやし」は能舞台を中心に赤天狗が 参加の氏子たちを如意棒をもって追いかけ回ります。能舞台の板塀を叩き追いかける姿は 初代御旅所ではやし言葉や板塀を叩く姿はほとんど同じであり これが今に伝承されたものではないでしょうか

*一説には猿田彦(神様)が一番強いと氏子を追いかけまわすとの説もあるようです。



3その他…御旅所のあったところの字名「前虫」についても問合せ調査しましたが残念ながら手掛かりは得られませんでした。

②魚橋村の出井家の石碑について

情報

- ①前年の調査で 石碑には神吉頼定公ほか名前が出ているが詳しくは今後としていた
- ②墓地にお参り来られる高砂の神吉さんはいろいろご存知では

テーマ

1. 出井家の石碑に関し 広く調査し歴史をひも解く

深掘り

6月に神吉さん宅を訪問のところで貴重な資料、手紙を見せていただきコピーさせて頂きました。 内容検討の結果を次ページ全体家系図に示します。

◆保管されていたお手紙、資料ほか



・お手紙類

橋本様、清水様、神吉様



・「ルーツのルーツ」

清水克隆著



・写真類

魚橋の墓地ほか

◆魚橋現地の石碑



★神吉頼定公の末裔の方が東京にもおられました

また、奇跡的にも末裔の清水様のお孫さんに面談することができ、由緒ある過去帳を拝見することが出来ました。



過去帳

1. お手紙、資料類の内容

- ①驚くことに播磨の歴史の大家橋本 政次先生が 昭和39、40年に魚橋の現地、各村々を詳しく調べられていました。
- ②この調査の発端は神吉頼定公の末裔の清水 克隆様が知人を通じ同家に伝わる神吉頼定公と側室の戒名のある過去帳について調査を依頼された。また、清水様は祖母の「出井かの」さんから幼少時代の魚橋の大きな屋敷での生活やその後の生活をよく聴かされておられました。後年「ルーツのルーツ」を書かれ、その中に 橋本先生の調査内容のほか神吉、出井、清水家の苗字の変わった経緯なども詳しく書いておられます。
- ③橋本先生は79才の高齢にも拘らず精力的な調査でエビ山の石碑を発見！調査報告書「神吉城の戦いと出井・神吉両氏の関係について」を草稿し全15章にわたる大作でしたが発刊には至らなかったようです。
- ④同じく頼定公末裔で墓地を守ってこられた神吉十郎さんは、橋本さんの調査から15年の後の昭和55年「正達寺」において 「ルーツのルーツ」の本を見せてもらい 清水さんに手紙で交信、清水さんより橋本さんとの意見交換の手紙と橋本先生の報告書の内関連の4章分を送ってもらっておられました。



橋本政次先生

神吉



出井



清水

これら記録を保管頂いた神吉様には大感謝です。





30代敏達天皇の子 難波親王の子孫
諸兄の外孫左近太夫高則の家系

光則
高義
高直
高昌

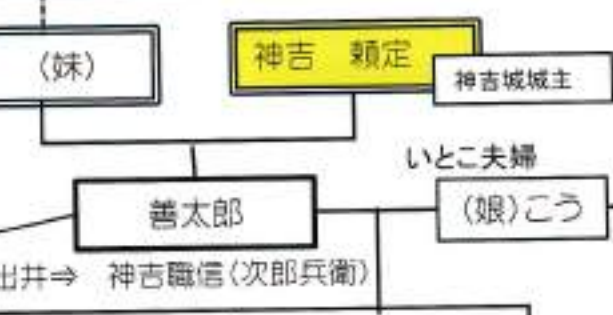
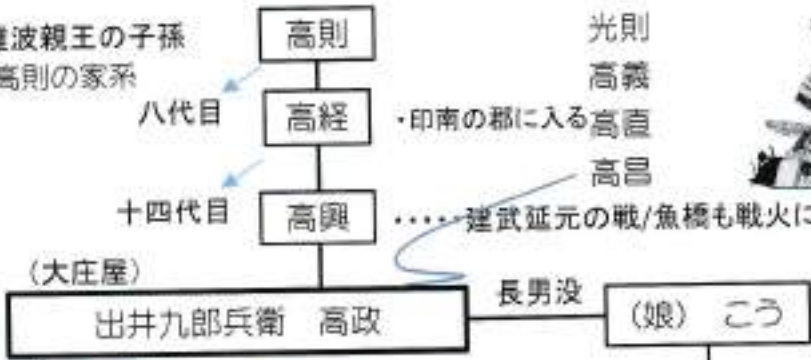
八代目

十四代目

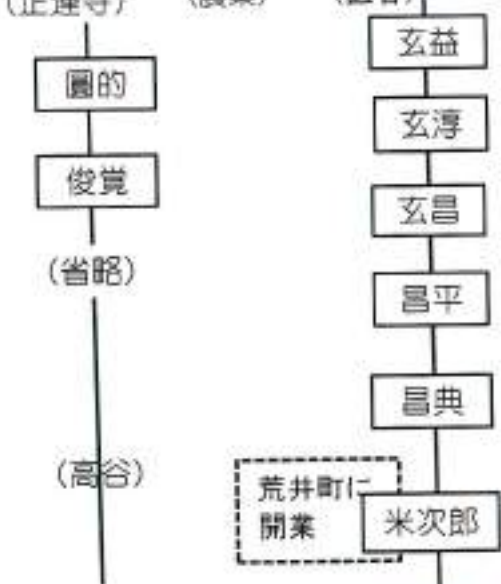
……建武延元の戦/魚橋も戦火に

黒田官兵衛の養女となり頼定に嫁ぐ
戦で魚橋出井家に逃げ延び善太郎を出産

出井家の養子となり娘こうと結婚
後に神吉姓に改名
名前も職信に



エビ山の石碑

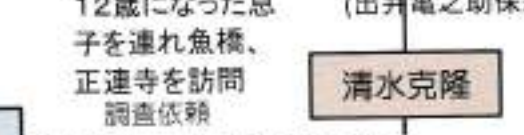
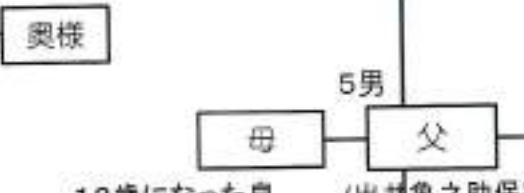


遺言で神吉姓を元の出井姓に戻すことを指示

一人娘"かの"に婿養子をとらせ出井姓を残す。過去帳を出井かのに引き継ぐ

幼少は魚橋で大きな屋敷で育つ 結婚して京都伏見に住む 85~90歳までを息子の住む横浜で生活

18歳で英国に行き帰国後 横浜で貿易商を営む。徴兵制度違反の関連から清水家の戸籍に入る



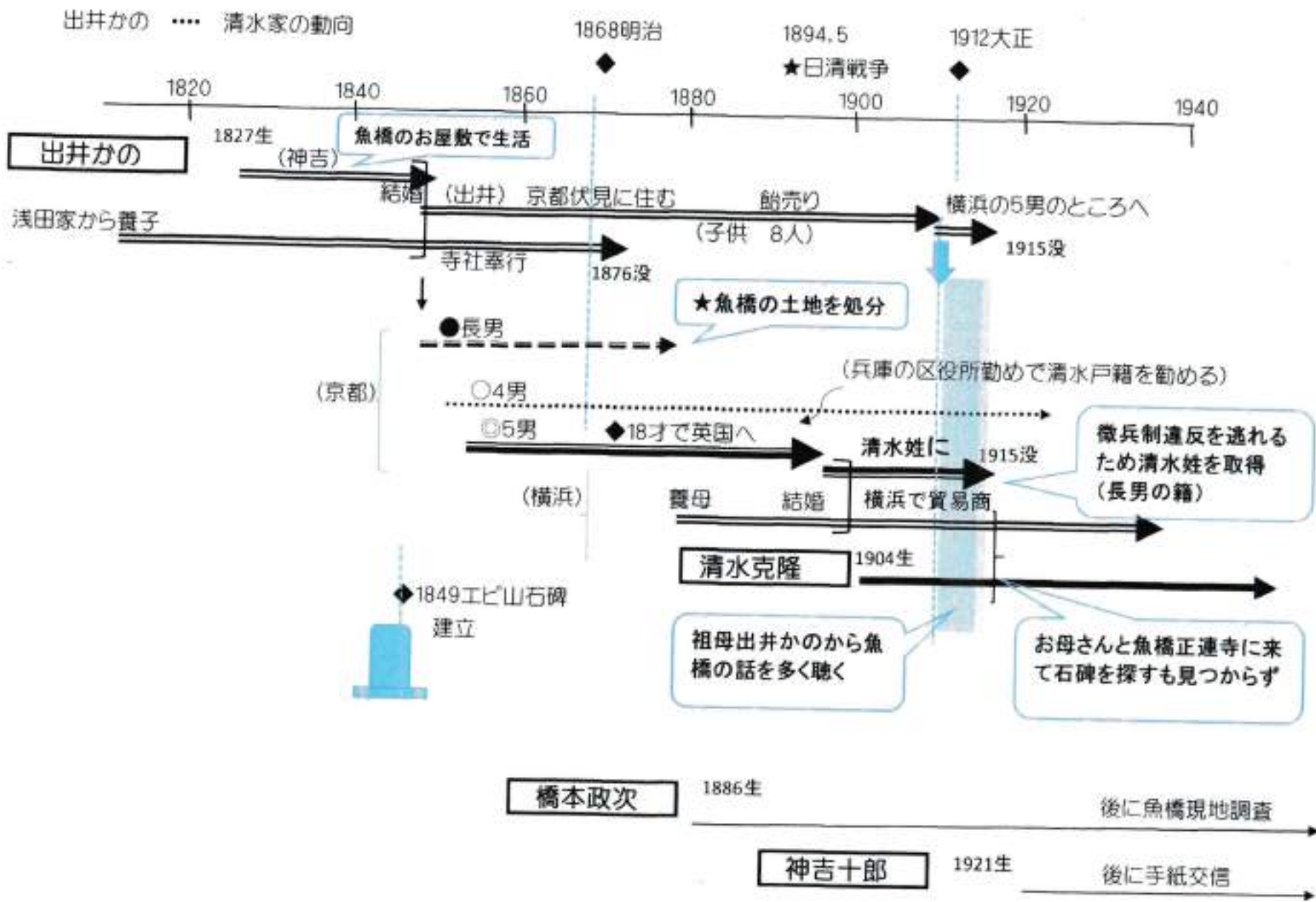
◆姫路の郷土史家 ... 魚橋の石碑発見者で清水さんと意見交換

橋本政次

12歳になった息子を連れ魚橋、正連寺を訪問 調査依頼

祖母出井かのから魚橋の昔話をよく聞かされていた 東京銀行の常務を歴任

なぜ出井姓でなく清水姓か！！



③神吉久太夫の歴史考察

情報

- ①印南郡誌:神吉頼定公の子善太郎の次男久次郎がのち久太夫
- ②印南郡誌:神爪一の華表…城崎の宿で姫路藩主に無礼を働き怒りをかう
- ③神吉村雑囊録:久太夫は神吉村大庄屋を兼帯した

テーマ

- 1. 神吉久太夫はどれだけの大金持ちだったのか
- 2. 史実と伝承話が混在する 謎の人物を追跡する (印南郡誌)

深掘り

1. 神吉久太夫はどれだけの大金持ちだったのか

◆神吉久太夫の事業

- ①志方原の大池の築堤
- ②魚橋 正蓮寺の正門再建
- ③北池 初代御旅所の能舞台建設
- ④志方 西山新村開拓
- ⑤石の宝殿 灯籠奉納
- ⑥神爪 一の鳥居建立



原の大池



正蓮寺



能舞台



灯籠



鳥居

1) 魚橋に大きな屋敷があった

魚橋に久太夫橋がありその周りを屋敷跡という。魚橋の村の半分が久太夫の敷地であったという。
★末裔の出井かのさんが幼少の頃 大きな屋敷に住んでいた。

2) 城崎温泉で宿を貸し切ったの豪遊の時、姫路藩主に部屋を空けず酒の席で無礼をはたらいた。後日生石神社に祈願し処罰を免れそのお礼に神爪一の鳥居を建てた。

3) 後日談として 姫路の藩主のどれだけの金持ちか?との質問に 魚橋から姫路まで千両箱が飛び石の様に並べることが出来ると言ったとか。



◆久太夫が掘ったといわれる用水路と久太夫橋

★なぜこれだけの事業をしながら、記録類、墓石などの記録がないのか!

◆藩主への無礼は後日厳しい沙汰(欠所)が出たのではなかろうか

- 財源は
- 1) 神吉頼定公の孫の立場を生き、魚橋の庄屋、神吉村の大庄屋を兼帯。(後述)
 - 2) アサカラ池開拓後の魚橋用水路の利権を活かしたか?(阿弥陀、伊保崎、曾根)

○神吉久太夫

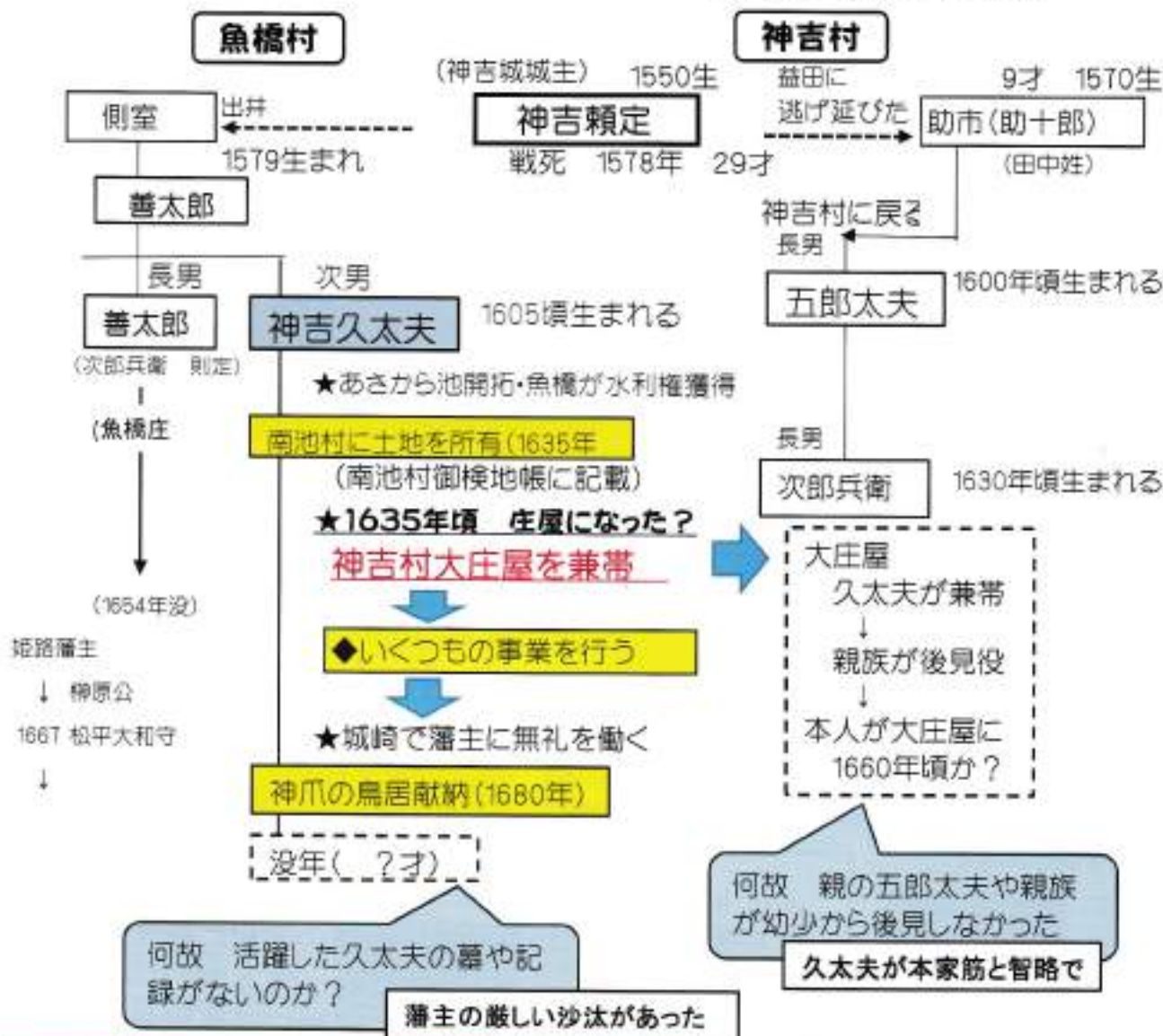
神吉久太夫は神吉長部大権路の孫と出づ。元禄六年七月十六日神吉城の時相伝の軍(姫路藩主黒田官兵衛の嫡)懐胎にてありければ城を遊びて魚橋村に到り、出陣九郎兵衛といふに思ひ一子善太郎を産む。文政二年七月善太郎十六歳の時母に病歿す。四年九郎兵衛之を情み善太郎を己が養子となし、姫路に配して田舎持山彦と之に諱る。善太郎後次郎兵衛職名を改めし神吉を稱ふ。三子あり。長を善太郎と名づけ家を繼がしむ。二男を次郎三郎といひ後孫襲して正蓮寺豊國の養子となり。二男は久太夫と神吉村内に別家す。久太夫後久太夫と改めず。知事あり。よく家計を治め産を積み其官邸に及ぶものなり。又よく公談を誦し。又文中西山新村を開墾せし。こと野村誌に詳し。日勝に曰く善吉方村の内下原村の大池は元伊保村に水を引かんとして久太夫の築造せしなりと。又曰く魚橋村正蓮寺の正門及生石神社石神社の御旅所なる能舞台は同人の一建立なりと。又末裔村の内神尾村の東端なり。生石神社の大鳥居は延慶元年申酉等より改称村神吉久太夫氏信託あり。然れども其後断絶して其に其神行を

神吉久太夫は神吉大庄屋を兼帯したか？

《神吉村雑蓑録より》

神吉の大庄屋次郎兵衛については、神吉民部大輔の弟で幼名助市というものがいて、その助市の子にあたるのが五郎太夫で その子にあたるのが次郎兵衛である。
この次郎兵衛は幼い時、とても大庄屋が務まるわけではないので、暫くは魚橋村の久太夫が大庄屋を兼務した。その後は次郎兵衛の親族が後見役をした。その後、次郎兵衛自身が大庄屋を務めた。その年代についてはわからない。

■年次については殆ど推定



考察:推定の年次ながら 神吉村の大庄屋を兼帯したであろう。
 また、阿弥陀、伊保の庄への水利権を握り、これをもとに財産を築いたかと思われる。

まだまだ謎の残る 神吉久太夫です

【備考】 ①城崎事件は松平大和守ではないか(1667年に藩主となる)
 ②江戸時代前期は大庄屋の情報記録は殆ど無い
 寛保2年(1742)姫路藩御条目に大庄屋制度や武士への無礼に厳しい罰則あり



④真宗谷(屏風谷)の宝塔

情報

- ①印南郡誌:正連寺…天台宗 圖により開かれた屏風谷真宗寺…
- ②満賢法師に西南の峰に壮麗なる宝塔を建てた
- ③十輪院、安楽院、正連院の坊舎あり 書写、法華山にならぶといわれた…

テーマ

1、真宗谷に仏閣の遺跡はないだろうか

深掘り

★満賢法師が西南の峰に建てた宝塔跡か

◆真宗谷で開墾畑仕事をされたことがある人から聴取。

- ①「昭和40年ごろには谷筋は開墾され畑地となり寺院の跡らしきものはなかった」
- ②ただ、山の上の方に5m四方の地に玉垣があった。何を祀っていたかは知らないが老女が時々お参りに来ていた。

年末に場所お案内をお願いし、確かに西南の尾根の所に石の柵と祠がありました。



★西南の尾根に建つ宝塔位置



○無量山 正連寺 魚橋村
宗派 真宗大谷派 東本願寺末
本尊 阿彌陀如来
開基法師は長岡宗室源朝は義政公の家臣高谷主高殿
ふ、満賢法師の曾父左馬頭源満仲も亦當山に皈依して二千余貫の寺領を寄附す。満賢又西南の峰に於て壯麗なる宝塔を立て佛來の金剛經及び一切の經卷論釋を教め金剛有縁山經王堂と號す。後人略して金剛

◆祠のお祀り



大鷹大龍王
白山二神
大権現

◆玉垣の名前

長谷川・・・
神戸：
成谷武一郎

宝塔の礎石ではなかったが西南の尾根に建てたとの記述と一致するところからここに当時立派な宝塔が立っていたと推測される



◆尾根から見たエビス山、鴻池

◆こんな宝塔が遠くからでも見えていたのでは



◆近くに日蓮宗の石碑もある聖地

⑥浮石:日本三奇は誰が言い出したのか

情報

- ①印南郡誌(初版)に書かれたのが一番古いようだ
- ②橋 南谿の東西遊記には石の宝殿も奇なるものと一行書かれているだけ

テーマ

- 1、橋 南谿の「旅日記に石の宝殿」の記載文がどこかに無いか
- 2、日本三奇と初めて言ったのは誰であろうか

深掘り

- 1、橋 南谿の旅日記に石の宝殿の記載文がどこかに無いか
 - 1)早稲田大学蔵書…現出版物の原本で 塩釜の項に「播州の石の宝殿と塩釜は実に奇物なり」の一行のみ
 - 2)津市の観光協会ほか調査依頼したが 手掛かりはなし
- ★京都出発から明石、播磨へ紀行を開始しており、鶴林寺、石の宝殿の紀行文が無いのはどこかで紛失したものと推測される(尾上の松、曾根の松はあり)

2、日本三奇と初めて言ったのは誰であろうか

(仮説) 親交のあったであろう神爪出身の「山片蟠桃」が日本三奇と
言い出したのでは無からうか…。

天体観測会を南谿が日本で初めて開催し交流があったのでは。

◆山片蟠桃の蔵書のリストの中に西遊記関連が何冊か見られ
ひょっとして原本を蟠桃が借りていないだろうか?

- 1)残念ながら、蟠桃の蔵書を保管している愛日文庫に問い
合わせるも かつてあった多くの蔵書は第2次大戦の時焼失。
最新蔵書目録ではこれらは見つからず。
また個人の文書関係は軍の指示で破棄されたとのこと。

●東遊記(塩釜編)
最後の一行に記載のみ

調査を断念!
後世の研究の
成果に期待し
ます。



●印南郡誌
(初版)



山片蟠桃



橋 南谿

石 寶 殿 (名勝) 郷社生石神社境内
三面断崖を以て圍み中に石殿あり池中に横はる之を石寶殿とす方三間半葦底より棟に至る貳丈六尺古色香然
實に太古の遺跡なり陸前瀧門神社の遺蹟
一なり

⑥浮石周辺の玉垣について

情報

①参拝客から 立派な大きな玉垣だね..との話に

テーマ

- 1.いつ、どのような人たちが寄附をしてくれたのだろうか
- 2.石の玉垣の前はどんな垣根をしていたのだろうか

深掘り

1.いつ、どのような人たちが寄附をしてくれたのだろうか

- 1)昭和10年 宮総代、世話人14名の名前が北側東下の玉垣に彫られています。
- 2)合計 123本の玉垣があり、氏子村の有力者、企業、お医者さん、旅館など。
企業:14本、 医者:8本、 旅館:4本 ……詳しくは別添ご参照

【見どころ】 南東下の大きな玉垣を紹介

- 1)多木肥料主 … 元は肥料王 ⇒主に変更
当時の100円は100万円に相当
- 2)由井清太郎 … 大阪の商人か？
大阪五徳会の世話人として岡山県道通神社にも
大鳥居を奉納しておられる
・大阪の商人か？ 氏子縁者が調査中
- 3)奉天から稲岡福次さん
稲岡タオルの中国進出が解る

【玉垣の製作】

石工:塩市 山本石太郎

【気になる玉垣】

曾根化学実験所
小結酒造…伊藤長次郎
宝殿運送合名会社
竜山温泉旅館
荒熊旅館
松月楼

2.石の玉垣の前はどんな垣根をしていたのだろうか

昭和10年までの玉垣建設までは
写真の様に木の柵で囲っていた
のではないかと推測。
さらに鮮明な写真の入手に
期待します。

★階段も後世に
削りこんだものか？



⑦あさから池

情報

- ①播磨国風土記の池の原や印南郡誌に出ているあさから池についてもっと知りたいものである。

テーマ

- 江戸時代に開拓されたあさから池はどんな大きさか
- 魚橋村の逆サイホン取水についての歴史は

深掘り

- 江戸時代に開拓されたあさから池はどんな大きさか
 - ①上部井用水の記録で池40ha、耕地50haになったと記載されている。
 - ②開拓したのち北池、南池の米の取高が900石(文化年間)とあり上記とほぼ合致。
- 40haを地図の上に展開して池を想定
40ha=600m×700m(東京ドーム8個分)



【法華山谷川からの取水】

- ①その昔は谷川の支流があさから池に流れ込む
- ②江戸時代の池の埋め立て以降では魚橋村が農繁期に戸板5枚で川を堰き止め谷川の水位を上げて魚橋側に流した(場所は右の図の逆サイフオンのところ)昭和40年まで堰き止め作業は行われた



★神吉久太夫は大きな利権を得たのでは？

魚橋の取水溝を久太夫が造ったとの話もあり、推測の範囲であるが、江戸の初めのあさから池開拓のあと、北池、南池及び伊保の庄4千石の水も魚橋の取水口に頼ることとなる。金時井用水が出来るまで魚橋の利権はさぞ大きかったと思われます。

村の西外れなる海老山の麓は其の注入口なりしと言えり、池の南端は今の池尻附近なりしなるべし

池に流込みたるる字北原はその

慶長年中姫路藩主池田候の手によりて開發せられたるにて北池南池の開村は当時のことなるべし

池が禁

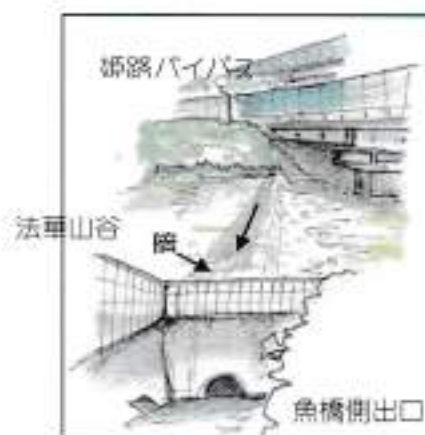
りしと言へり、池の南端は今の池尻附近なりしなるべし、地方の記述によれば池尻の西も池を付し北

魚橋村の西より北池南池方に及びし大池をあさから池と言へり、水浅き沼の池之原の地に

○ 後から池
風土記・池の原

- ①標高2.3mの範囲を基準に池を想定した。
- ②JRと2国は元は低く 阿弥陀の北側から土を運び盛り土を行った。
- ③旧山陽道は魚橋から北を通り大日池へと通じていた。

- ③昭和40年に神爪側から魚橋側に逆サイフオンを造り、その後堰き止めは不要となった。(加古川本流の水を引き込む)



魚川サイホン:魚橋の踏架

- ◆令和2年にすぐ下流にさらに深い逆サイフオンを造る。

⑨高御位の鯛砂利と石屑運搬ルートについて

情報

- ①志方町史:成井は浮石の石屑運搬ルートにあった七つの井から成井となった。……
- ②印南郡誌:高御位神社…尻尾を上、頭は下にした鯛の形をした砂利捨て場あり
- ③播磨の山名:生石から魚橋に行くところに息継ぎの井戸があった……

テーマ

- 1.魚橋ルートの検討とウォーク……原の谷の息継ぎ井戸、北山、長尾に井戸はないか？
- 2.成井ルートについて文献調査 …… 梅の水の井戸の調査(字名)

深掘り

★鯛砂利(たいじゃり)の場所について

1,2月の冬場に 高御位山の山頂の下にタイの形が現れます。
また、この下の谷間には多くの小石があり、かつては阿弥陀小学校の児童がこれを持ち帰り、校庭の花壇に使ったことがあります。



1.魚橋ルートの検討とウォーク

1)北山、長尾に息継ぎの井戸はなかったか
山裾に湧き水は今もあちこちにあります。
初代の御旅所の横にも湧き水があり、この辺りに息継ぎの井戸があったものと推測されます。

2)原の地藏さん近くに井戸があり 農家の人々が農作業の合間に利用したきれいな湧き水が今も出ています。
息継ぎの井戸ではなかったかと推測される。
(現在の餅タカサゴの東道路わき)



原の地藏様



湧き水の井戸



3)生石村の息継ぎ井戸

「ふるさとの山名復活」の中に記載されているが既に埋められたか近くの人達も知らないとのこと。
小さな池などがあり水が湧き出ていることは想像できる。



2.成井ルートについて文献調査 …… 梅の水の井戸の調査(字名)

志方町誌によると 浮石の周りの石屑を属神「あまんじゃこ」に命じ高御位山に捨てさせた。途中で七つの息継ぎ井戸があり「なるい」は七つ井の転音であろう。そのうちの3つは魚橋にあり、また一つはこの村にあり「梅の水」と称するのがそれである。この梅の水は梅の水という字の東南隅の川の中にある……と



字:梅の水付近の川筋

(注)成井村は元禄14年成井新村と称して成井本村より分村せしものなり。もとは本村垣内にあり。……川の氾濫で西へ西へと村が移動したもの

【考察】

成井ルートの息継ぎの井戸は距離的に西神吉町の辻村、志方の西山村あたりにもあったのではないのでしょうか。(この両村は江戸時代には北条から曾根への道として賑わっていた)

【仮説として】

法華山谷川を舟でさかのぼり石屑を捨てることはなかっただろうか？梅の水の位置から言って船着き場がありここで息継ぎをしたのではなかろうか？ほかのルートも調査しながら検討が必要であると思われる。



⑨ 亀山石工の作品

情報

播磨の石造遺物:藤原良夫著

① 亀山の石工たちは近郊の各市町に173基もの石造品を治めている
ほかの地区では地元の石工が造っているのに何故だろうか

テーマ

1. 藤原先生の著書にある近郊の石造遺物を実際に探してみる
2. 身近なところにある石造物と石工を探してみよう

まだまだ身近にある石造物を探して活動を継続します

深掘り

1. 藤原先生の著書にある近郊の石造遺物を実際に探してみる

- 1) 有名な石造物と石工を訪ねる



観涛處
生石村仲右衛門



天川橋
生石村仲右衛門



今市住吉神社灯籠、狛犬
生石村仲右衛門



加茂神社:灯籠
魚崎村甚兵衛

- 2) 加西市住吉神社ほかを訪ねる

◆ 令和3年9月10日の見学会の様様を次ページに紹介します



加西:中西日吉神社 石階、鳥居
魚崎村:原文蔵



浮石の玉垣
堀市村 山本石太郎



阿弥陀共同墓地 石仏
魚崎村太平治

- 3) 近場でさがした石造物



御着国分寺の鐘つき堂
魚崎村 清五郎



神吉神社の玉垣
神吉村吉川孫太郎



牛谷教蓮寺石碑
魚崎村太平次

加西の石造物と石工ほか散策

令和3年9月10日

①谷口町八幡神社の 鳥居



魚橋石工
孫左衛門



②住吉神社の灯籠
生石石工 仲右衛門



大灯籠
東高室:尾林清助貞治

③磯崎神社 魚崎 石工 原文蔵
生石 石工 林兵衛



④石部神社の門杉



⑥尾崎町 多門寺 石段
(後藤又兵衛ゆかりの寺)

宝殿石の石階
石工 西長村太兵衛
(階段はコンクリート製に)
寺の墓地に移されていた



⑤玉丘古墳 頂上部



⑩生石神社のかつての建造物

情報

- ①鐘楼が南斜面の上方に平地がありそこに立っていた
- ②宝殿山北にも土塀があった など多くの情報がある
- ③白龍の祠が南の池にあった

テーマ

1. 昔の絵図を集め過去の賑わいの建物群を纏める
2. 実際に現地を調査して 遺跡などを調査検討する

深掘り

1. 昔の絵図を集め過去の賑わいの建物群を纏める

- 1) 明治27年「播磨国石宝殿真景」…現状の姿に一番近い絵図



★著作権所有 ……

印刷●発行者 東 政親

←宝物殿の建物(南側)

←今の詰所の建設されたのは
文久年間(1861~65)

- 2) 「播磨国石宝殿 社真景」 …… 前ページの真景の北側を補完するものが



←南上部に平地がある(鐘楼の跡とも)

←浮石両側の土塀は？

←鐘楼が大スワリのところであり

←休憩所(土産)らしき建物あり

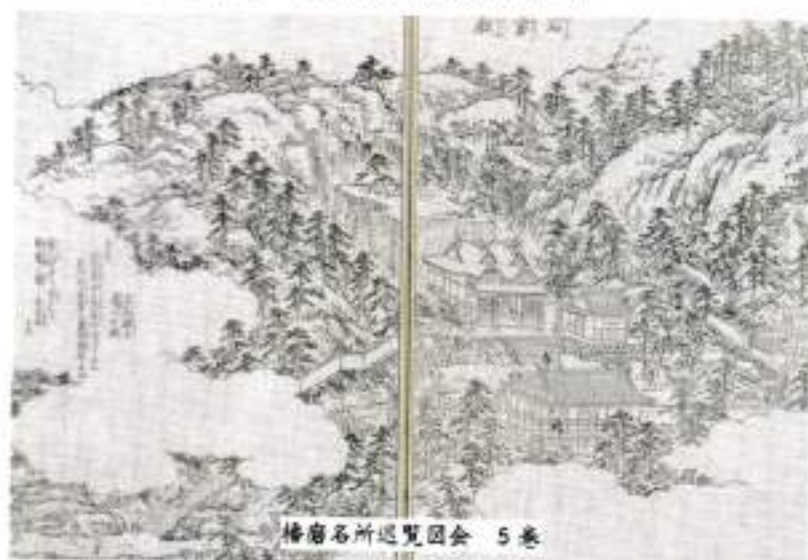
- 3) 中谷与助の絵図

右図は上図の石宝殿真景に
極似している。明治26年は
発行の前年でこれが先か？



◆鐘楼は大スワリにあった？

4) 「播磨名所巡覧図絵」…文化元年発行(1804)

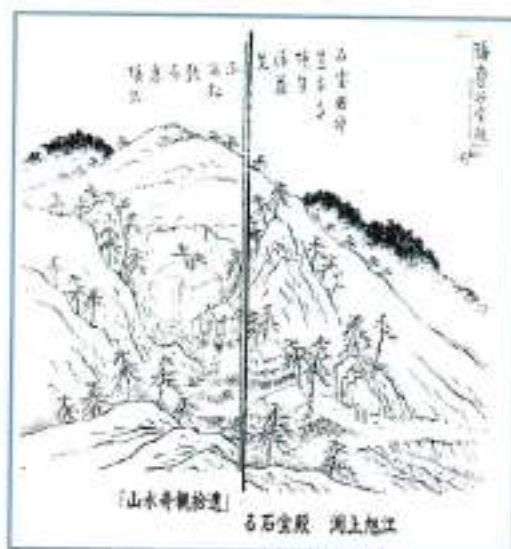


- ← 詰所が北側半分しかないのは？
- ★ 文久年間(1861~65)に建て替えられたからか
- ← 鐘樓の絵がオオズワリのところにある

5) 春山弟彦 著 播磨地誌略より …… 播磨名所巡覧図絵を写したものが



6) 洲上旭江の絵 …… 詰所は北半分か？



7) 作者不明



鐘樓が今の便所のところにあるが
手洗水を鐘樓に見立てたのでは？
絵馬堂の階段なども不正確である

8) 休憩所・土産店が鳥居のすぐ上に在った。



茶店

⑪米田の新田橋付近の今昔

情報

- ①子供の頃 大きな竹藪があって竹馬の材料を取りに行った。
- ②宝殿中学校へ行くのに大きな堤を東に、急な坂を下りて通った。
- ③米田小学校に行くのに大きな橋と深い小さな橋を渡って登校。

テーマ

- 1.大きな新田橋の写真があるが いつ、どのように架かっていたか
- 2.竹藪はどのあたりにあったのか
- 3.複雑な交差点はどのようにできたのか？

深掘り

- 1.大きな新田橋の写真があるが いつ、どのように架かっていたか



- 1)大正15年頃の地図(右図)の米田新⇒米田への道に架かっていた。
当時は北条街道が未整備でした



- 2.竹藪はどのあたりにあったのか

- 1)竹藪は中島村を洪水から守るように東西に広くあった。
(美保里は新興団地で昭和25年頃に開発されました)
- 2)今の図書館のあたりは川原のようだった。

【航空写真より】

- 1)まだ田畑が多く村々の配置がよく解ります。
- 2)北条街道が高砂より直線的な道路に整備されました。
- 3)米田小学校と米田天神社もはっきり位置が解ります。
- 4)塩市村から米田への通学路はかつての秀吉堤であったところ。

昭和35年頃の航空写真(国土地理院より)



3. 複雑な交差点はどのようにできたのか？

- 1) 西加古川の大きな流れの変遷に伴い、幾度も道や橋が造り直され、またこれらの道が大切に残されてきた。
- 2) 南北の北条街道が米田村の東に整備され、交差点も多くなった。
- 3) さらに交通量が多くなった東西の道を今の交番前に新整備し、また、旧の道もそれぞれに残したためさらに複雑化した。



明治28年頃の米田橋付近



大正15年頃の米田橋付近



昭和23年頃の米田橋付近



4) 宝殿中学校への通学路のA地点は急な坂道となっていたが、櫻の移植の時などによりかなり緩やかに整備された。

5) 歩道橋の上から東を見ると、かつての川筋が今でも低く見える。用水路がかなり低い位置にあり、今の北条街道が高い位置まで盛り土されたことが解る



6) 米新村から米田小学校への通学路は昔のまま残っている。深い用水路に架かる橋も写真奥に現存する。





- ◆昭和30年頃の今の高砂市立図書館あたりの風景 … 美保里からの展望
中島への用水路の流れとあたりは田畑、遠くに西谷酒造、米田橋が見える。
北側の高い土手は切り崩されて図書館周りの盛り土にされました。
また、土手は図書館から塩市の道路へ、用水路は暗渠へと変身しました。

国史跡石の宝殿と関連史跡
魅力の深掘り研究報告

発行 令和4年2月1日
発行者 石の宝殿研究会
編集 松村 聰
連絡先 080-4021-9095

令和3年度高砂市「夢の代」補助金対象事